

大久保克也さん（16期）の遺作展

会員の皆様へ

後援会事務局より

先日ご案内した遺作展に行かれた穂永様（大17）と坂上様（大16）からご報告がありましたので紹介します。

大久保克也さん（16期）の遺作展に行きました

17期 穂永千秋

夏至の午後、昨年の夏亡くなったテニス部の先輩 16期の大久保克也さんの遺作展に行きました。偶然というか、同じ日に亡くなられたという絵仲間の方との合同遺作展に、訪問し記帳される人結構多く、奥様も対応にお忙しそうでした。その中で、和大的テニス部の後輩でしたと名前を告げると大層喜んでいただき、ご主人を思い出されて時々涙ぐんでいらっしゃる姿が印象的でした。それでもお暇するまでの小一時間、ご家族思いだったご主人が、水彩画に関しては、本当に熱心に絵筆をうごかされていたと、思い出話を語っていただきました。

定年後近所の風景画の先生に師事して、熱心に通われて、先生からもその上達を称賛されていたとのことでした。水彩画のあっさりとした微妙な色合いと、緑（青系）を巧みな筆遣いで、人柄をしのばせるような優しいタッチで描かれた風景画が、亡くなる五年前から順番に二十点展示されていました。「鹿嶋立ち」の同期の方のお話以外、奥様にもあまり外での話はされなかったとか、と云って友達づきあいは律義なほどこまめにこなされておられました大久保先輩、昨年の急逝が本当に惜しまれ、今でも信じられない程です。

今回の遺作展も、師匠であった方がお世話になった方々へのお礼にと企画して貰い、民家のような一戸建ての和風のギャラリーがほっとさせるものでした。一周忌を前に遺作展で改めて偲んで貰える先輩は、幸せな方だったのでしょうか？奥様の話では、絶筆となった最後の作品が、市の展覧会で飾られた翌週に、安心されたかのように急に倒れられて、意識も回復せず、何も言葉の無いまま逝かれたとのこと。苦しまずによかったと思う反面、残る家族への思いが伝わらなかった無念さもあるかと思うとおっしゃられていました。案内状やお土産の絵葉書にある絵以外に、私の気に入った絵は、「醒ヶ井の水辺の風景」でした。



坂上様より

昨日大久保克也君遺作展に 16期吉田・関野君と3人で行って来ました。奥様より萩原会長・穂永事務局長・井上純一さん更には市川先生ご夫妻とたくさん来ていただいて感謝していますと、何度も繰り返し喜んでおられました。